

人生の達人

この言葉を知ったのは青年期の頃だったと思いますが、人生の節目節目をうまく乗り越えて行くような人のことだと知りました。

当時の私は自分ひとりの事さえ満足にできず、思い悩む事が多かったので自分の手に入りそうにも思えず、自分は対象外だと思いました。それでも同年代で落ち着いて、行動も的確な人がいました。ただただ羨ましい思いで見ていただけでした。

悟りのたびに人生の達人みたいな気分にはなりましたが、2002年2月の「大きな変革」から順調に「行」が進みだんだんと「人生の達人」になるべく力を備えてきたと思います。そのうち主なものは広い視野で見る状況判断と賛同を得るためのコミュニケーション能力が目だってよくなったと実感しています。

松下幸之助さん

彼は「経営の神様」として尊敬され経営哲学や経営政策に注目されていますが。人生哲学の著書も多いように「人生の達人」といった面が基礎にあったのだといわなければなりません。

社員教育を考え実践するにも、経営について考え実践するにも「人生の達人」という要素があったから順調に実践できたと言えるでしょう。

彼は大変幅広く活躍されました。（例 PHP 研究所、松下政経塾他色々）

それらを含む全ては毎朝 30 分～1 時間されていた坐禅の「深い悟り」の効果だと考えています。

「素直な心になるために」にまとめてくれています。

（ネット検索可 PHP 研究所+素直な心になるために より詳しくは本で）

幸之助さんの場合、毎朝「強く願う」方法は坐禅でした。

私はより すぐれた方法として「1、2、3」を開発しました。

今はとにかく「無理」と思っている人でも、「1、2、3」をしているうちにだんだん「人生の達人」への道に進めると確信しています。

効果は実践時間の足し算です。

